

オンライン開催!!

こどもと大人の
ICTカンファレンス
2025 in おおいた議
論
テ
マわたしたちが考える世代を超えた
ICTやAIの活用と課題解決の提案

～偽・誤情報等のリスクを見極め、安全で豊かな情報社会を築くために～

今、わたしたちは意識することなく、インターネットやICTツールに囲まれ生活の中に取り入れています。しかし社会全体を見渡すと、そうしたツールが使いこなせていない、理解されていない方々や、すでにデジタル前提のコミュニケーションがあたりまえになっている方々まで幅広く存在している時代であると気付きます。この時代の中で、中高生をはじめとする若者たちと、社会の様々な立場・世代の大人たちが共に身の回りの方々やニュース等から見えてくるICT利活用の課題について「私たちならこう考え、こうしたい、こうできると思う」という視点を持ち寄り、世代を超えて意見を交わしながら、安全で豊かな情報社会を築くための提言を行います。

日時 令和7年7月26日(土) 12:30～17:00 会場 ソフィアホール

参加 51名(高等学校11校・中学校2校・大人参加者11名)

大分県立高田高等学校・大分県立杵築高等学校・大分県立情報科学高等学校・大分県立大分雄城台高等学校・大分県立大分工業高等学校・大分国際情報高等学校・大分県立大分商業高等学校・大分県立別府翔青高等学校・大分県立日田高等学校・大分県立大分西高等学校・大分県立大分豊府高等学校・大分県立大分豊府中学校・別府市立別府西中学校

主催 大分県、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所 主催(全国) 高校生ICTカンファレンス実行委員会

共催(全国) こども家庭庁、警察庁、消費者庁、デジタル庁、総務省、文部科学省、経済産業省

後援 OBS大分放送 TOSテレビ大分
OAB大分朝日放送 大分合同新聞社こどもと大人の
ICTカンファレンス
2025 in おおいた

アフターカンファレンス 2025

「知らない場所で、
自分の実力を試したかった」
— ICTカンファレンスで得た大きな自信と成長 —

今年度のカンファレンスで大分県代表生徒に選出された、
大分県立大分工業高等学校3年 二宮藍さんにお話をお伺いしました！



Q: ICTカンファレンスに参加してくださりありがとうございました！二宮さんは2年連続で参加いただいたのですが、なぜ今年も参加しようと思っていたのでしょうか？

(二宮) 昨年参加した際に、いろんな人とコミュニケーションが取れた経験が大きかったです。今はデジタルやネットの話が話題になっていますが、普段の学校生活の中ではあまり深く考える機会がないので、こういう場でもっと考えたいなと思って今年も参加を決めました。

Q: 確かに、身近なものだからこそ「考える」ことは非常に大切ですよね。今年のテーマの中にある「生成AI」については、現役高校生の二宮さんはどう感じていますか？

(二宮) プライベートではChatGPTをイラスト作成や話し相手として使っています。ネット上の情報は一気にまとめてくれて便利ですが、当たり前のように嘘をついてくることもあるので、そこは気をつけないといけないなと思っています。全国サミットでは「AIにできることはAIに任せ、人間にしかできないことを人間がすべきだ」という意見が出ました。例えば数学の計算はAIが得意ですが、その知識をどう新しい研究や建築に応用するかを判断するのは人間です。AIをどう人生に活かしていくか、最後は自分たちの力が必要なんだと学びました。

Q: 全国サミットでも生成AIについて熱く議論が交わされていましたよね！全国サミットに参加されて、そこでの経験はどうでしたか？

(二宮) 全国各地の代表が集まるので、すごく刺激になりました。知らない場所で知らない人たちとどれだけ会話ができるか、自分の実力を試して経験を積めたことは大きな自信になりましたね。班の中で「AIにできることはAIに任せ、人間にしかできないことを人間がすべきだ」という意見が出て、すごく盛り上がったん

です。例えば数学についても、「AIが瞬時に解いてくれるから勉強する必要はない」という意見がありました。でも私は、新しい研究を生み出したり、建築の現場で「どこを計算させるか」を判断したりするためには、過程としての数学の知識が絶対に必要だと思ったんです。便利なツールがあるからこそ、それをどう人生に応用していくか、最後は「自分の力」が問われるんだと強く感じました。

Q: 大きな学びと経験が得られたんですね！最後に、2年間の経験を通じてSNSでの「いじめ問題」「情報の取り扱い方」など自分の中で変わったことはありますか？

(二宮) 今のSNSはいじめが「記録に残ってしまう」怖さがある一方で、それが証拠になって救われる人がいるという両面があることを学びました。また、有名人へのアンチコメントや炎上についても、顔が見えない「匿名性」の問題を改めて考えさせられました。こうした経験を通して、ネットの使い方がすごく慎重になりました。LINE一通送るにしても「この言葉でちゃんと伝わるかな？」と見直すようになったり、不用意な発言をしないように気をつけたり。失敗から学ぶことも大切ですが、立ち止まって考える習慣がついたことが一番の収穫です。カンファレンスは、違う学校の友達と本音で話し合えて、自分の実力を試せる本当に貴重な場です。この経験をこれからの生活にも活かしていきたいです。

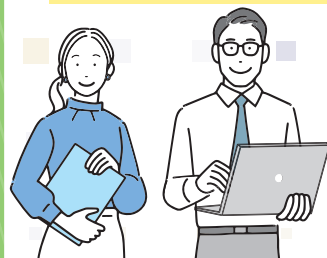


文責：ハイパーネットワーク社会研究所 矢野歩実

ICTカンファレンスって何？

高校生ICTカンファレンスは、2011年度に「ICTプロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&活用法～」として大阪でスタートしました。大分県は2013年度から開催し、今回は11回目となります。高校生の意見を国の機関に届けるべく、全国サミットにより提言をまとめ、ファイナリストに選ばれた高校生が、関係省庁で発表を行っています。大分県では令和元年度から『中学生・高校生ICTカンファレンス』の開催となり、中学生も参加しています。

大人の参加も始まりました！



本年度は子どもたちに加えて、保護者や教員、IT企業の方等大人も参加しました。世代の異なる参加者がICTとの関わりについて意見を交わし、子どものリアルな声に大人が耳を傾ける対話の場となりました。



各地域

ICTカンファレンスの流れ

アイスブレイク

自己紹介等をして、少しずつ打ち解けていきます。

議論・まとめ

4～5名のグループで、テーマに沿った議論をし、提言をまとめます。

発表

まとめた提言をグループ毎に発表し、県代表を決定します。

サミット

全国各地域からの高校生代表生徒がサミットに参加し、政府への提言をまとめるための議論を行います。サミットでも代表生徒を選考します。

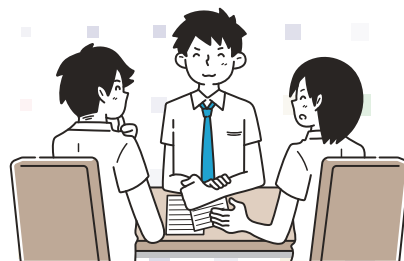
最終報告会

サミットの代表生徒が、共催府省庁に、高校生の考えを提言します。

ICTカンファレンスの開催目的

以下の目的で、中学生や高校生が学校の垣根を越えて話し合います。

- ①初対面の相手と「考える、まとめる、聞く、話す、見せる、伝える」ことに挑戦する。
- ②スマートフォンやインターネットを安心・安全に使うための情報モラルを深く考える。



当日の流れ（大分開催）

実際に顔を合わせて議論を進めるので、議論の楽しさを感じられる1日となりました。

タイムスケジュール

- 12:00～ 受付開始
- 12:30～ 開会、趣旨説明
- 12:45～ 自己紹介
アイスブレイク
「どのようにAI・ICTを使っていますか？」
- 13:05～ グループディスカッション1
「各世代のICTの使い方と目的、そのメリット・デメリット」
- 13:45～ グループディスカッション2
「デメリットをメリットに、メリットを増やす使い方」
- 14:15～ 提言作成
「わたしたちが別の世代へ伝えたいこと」
- 15:30～ 各グループによる提言発表
- 16:20～ 審査
- 16:40～ 審査結果発表・講評
- 17:00 閉会

発表



議論を後押しするファシリテーター

参加生徒たちのグループワークを後押しする役目として、カンファレンスの過去の参加者や大分県内の大学生・専門学校生にファシリテーターを務めていただきました。

協力校：IVY大分高度コンピューター専門学校
国立大学法人 大分大学

審査・表彰

各グループの発表については審査員による審査が行われ、各賞が決定しました。

また参加生徒全員による投票でグループ賞が決定、選ばれた個人・グループには、賞状及び副賞をご用意しました。



ICTカンファレンス2025の様子を動画で閲覧できます！ぜひQRコードからご覧ください。



全国

関係省庁

